

# かわせみ



市立ひらかた病院ニュース

R3年度  
夏号  
VOL. 49

〒573-1013 枚方市禁野本町 2-14-1 Tel (072) 847-2821 Fax (072) 847-2825  
ホームページ <http://hirakatacity-hp.osaka.jp/>

## 食道癌の集学的治療 および多職種による患者サポート



河合 英 (かわい まさる)

消化器外科主任部長 兼 栄養管理科主任部長

日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本食道学会食道外科専門  
医・食道科認定医・評議員、日本内視鏡外科学会技術認定医、消化器  
がん外科治療認定医

食道癌は、厚生労働省の人口動態調査によると男性に多く 60-70 代に好発し全悪性新生物の死因で 9 番目の多さとなっています。近年増加傾向にあります。食道癌全体の 5 年生存率は 40%前後で悪性新生物のなかでも予後の悪い癌です。予後が悪くなる原因としては、食道周囲に心臓・肺などの重要な臓器があり外科手術が高難度であることや周囲に転移しやすいことなどがあります。そのため食道癌の治療は外科手術だけでなく放射線治療・化学療法（抗がん剤治療）を併用する集学的治療を行える専門的知識が必要です。当院では日本食道学会の食道外科専門医が食道癌診療に携わり、手術は胸腔鏡・腹腔鏡を使用した低侵襲外科手術を主に行っており症例数も増加傾向にあります。さらに抗がん剤治療は化学療法専門医が担当し、放射線部門では放射線治療専門医が最新の放射線治療機器で集学的治療を行うことが可能です。

また食道癌手術は大きな手術となるため、周術期には外科医だけでなく他の診療科医師や看護スタッフさらにはリハビリ技師や栄養士等が one team となりサポートできる体制をとっています。特に食道癌では手術前から経口摂取不良の方が多く低栄養状態となっており栄養管理は非常に重要です。現在消化器外科主任部長が栄養管理科主任部長を兼任しており食道癌周術期の栄養管理を管理栄養士とともにしています。

当院での食道癌治療を希望される方は消化器センターまでご相談ください。

### 患者さんへの多職種サポート



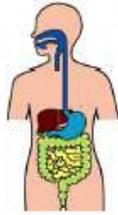
# 食道がんに対しての 栄養士による栄養指導



## 食道手術後の食事



### 食道の働き



食道は口やのどと胃をつなぐ長さ 25~30cm の筒状の臓器です。筒は普段はつぶれており、食べ物が通る時だけ大きく広がります。

食べ物は重力によって胃へ落下するのではなく、食道の壁にある輪状筋と縦走筋が波のように蠕動（ぜんどう）運動をして、噛み砕かれた食べ物を強制的に胃まで運びます。たとえ横になっていても食物がきちんと胃に送られます。消化吸収はしませんが、食道の内壁からは粘液が分泌されて、食物が通過しやすくなっています。

口から入った食物はわずか 60 秒以内で食道を通過し、胃に入ります。

### 食事のポイント

手術により、しばらくの間は飲み込みにくかったり、胃や腸の機能も低下しているので、細かくきざんだり、やわらかく煮込んで、消化のよい食事にします。

①エネルギー、たんぱく質、ビタミン、ミネラルを十分摂ります。

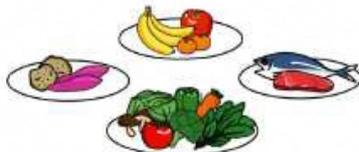


②流動食→三分粥食→五分粥食→七分粥食→全粥食→普通食の順に進めます。

回復の状況によっては、変更する場合があります。飲み込みにくい場合は水分にとろみをつけることもあります。



③使用する食品の種類を除々に増やしていきます。



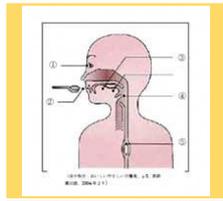
④食事量は少量からはじめ、回復の状態に合わせて、除々に増やしていきます。



**食べ過ぎ注意!!**

## 嚥下障害とは？

嚥下とは、口に入ったものが胃に到達するまでの経過を指します。



\*摂食・嚥下の過程（5つに分けられます。）

- ①先行期 何をどのくらい、どのように食べるかを判断する時期
- ②準備期 食物を口に取り込み、咀嚼し、唾液と混ぜて飲み込みやすいように食塊をつくる時期
- ③口腔期 食物を舌によって口からのどへ送り込む時期
- ④咽頭期 食物をのどから食道へ送り込む時期
- ⑤食道期 食物を食道内から胃へと送り込む時期

この過程のどこかに障害が起きた状態を摂食・嚥下障害といい、食事の際、食物の飲み込みが困難になる、喉につかえる、むせるなどの症状で、普通の食事を摂るのが困難になります。そのために低栄養や脱水に陥ったり、食物が気管へ誤嚥されることによる誤嚥性肺炎や、窒息の危険性も高まります。そのような方のために食物の形態を変えて食べやすく、飲み込みやすい工夫をします。

## NST（栄養サポートチーム）について

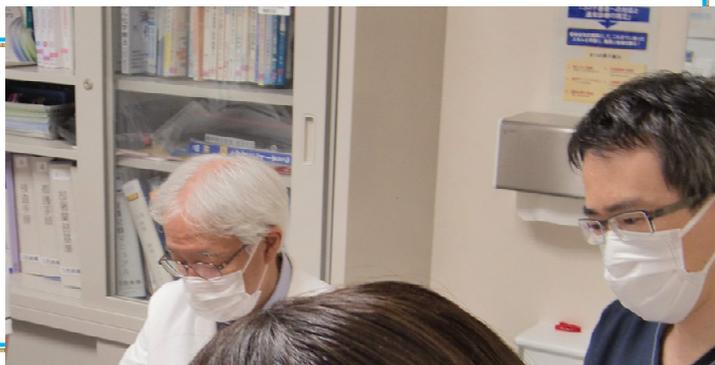


当院の NST は消化器外科医師がチームリーダーとして活動しており、多職種（外科・内科医師、薬剤師、看護師、言語聴覚士、検査技師、管理栄養士等）の専門性を活かしてカンファレンスを実施しています。中でも周術期の栄養管理については、低栄養状態であると術後合併症のリスクの上昇に関わることから、術前より NST が介入し栄養状態の底上げを目指しています。

例えば食道癌においては内視鏡検査や造影検査で狭窄の程度を確認し、流動物の通過が可能であれば栄養剤を利用し、腸管の機能の維持に努めます（免疫機能の維持・向上）。栄養剤も様々な種類がありますので、個々の状態と嗜好に合わせカスタマイズしながら繰り返し聞き取りを行い栄養管理を行っていきます。術後は腸瘻が造設された場合は経腸栄養のメニューの提案・管理を行います。また食事開始の際に嚥下機能の低下があれば、食事形態の工夫を行い、少しでも食事摂取が進むような提案を心がけています。

～患者の皆様へ～

入院中で栄養に関するご相談があれば NST、または病棟担当の管理栄養士にお尋ねください。



### 「かかりつけ医検索システム」を導入しました

本院ホームページ上で、「かかりつけ医検索システム」を選択すると、本院の登録医療機関リストが表示され、条件に合わせて検索することができます。登録医療機関を本院ホームページ上で PR すること、また、患者さんに登録医療機関の情報を提供することにより「かかりつけ医」をもっていただくことを目的としています。

市立ひらかた病院のホームページ上で、「かかりつけ医検索システム」を選択



## 登録医療機関のご紹介



### たなか内科・循環器内科

枚方市禁野本町2丁目7番26-101号

Tel 072-808-8830

診療科 内科/循環器内科



田中宏治先生

たなか内科・循環器内科は、開院されて今年で7年目を迎えられました。

田中先生は、診療の際に「身近で頼りになる親戚」的なスタンスで患者さんに接することをこころがけておられるそうです。患者さんにとって最善と思ったことは、言いにくいことでも家族のように親身になって話をする。また、パソコンの画面で図や写真を見てもらうなど、患者さんの立場にたってわかりやすい説明をこころがける。開院当初は患者さんもそれほど多くなかったとのことですが、そうした先生の人柄が患者さんからの信頼を生み、患者さんの増加につながっているのだなと感じました。

また、漢方薬の処方にも取り組んでおられることや、睡眠時無呼吸症候群の治療のこと、禁煙外来のことなど、たくさんのお話を聞かせていただきました。

クリニックは、受付でレゴのび太君が出迎えてくれたり、待合室の壁にショッカーが飛んでいたりと、先生の遊び心がさりげなく表れた楽しい空間となっているのが印象的でした。田中先生、ありがとうございました。



### 中西 歯科 医院

枚方市宮之下町 14-13

Tel 072-853-1500

診療科 歯科/矯正歯科/小児歯科



中西健裕先生

中西歯科医院は、現在地で開院されてからの18年を含め、香里ヶ丘の地で36年間、市民の身近なクリニックとして診療をされてきました。当初から通っている患者さんもおられるそうです。

中西先生が最も大切だと考えておられるのは「予防」とのことです。そのためには、歯磨きが基本で、子どもの頃から「食べたら磨く」ことを習慣づけることがとても大事だとお話されました。洗面所ではなく食卓テーブルなどで、鏡を見ながらしっかり磨く。学校でも、小学校3~4年生になると3次元的な感覚が

いてくるので、自分でしっかり磨くことを教えることができるのお話でした。また、子どもの口呼吸は健全な成長の妨げになることがあり、早期に鼻呼吸に変えることが大事で、中西歯科医院では、そのお手伝いを「顎顔面矯正法」で行っているのご相談くださいとのことでした。

その他、ここには書き切れないほどたくさんのお話を、詳しく丁寧にお話いただきました。中西先生、ありがとうございました。

